

(2) 「火事を防ぐために自分たちにできること」を考え、表現した。

・上記の課題を解決するための宣言文を「オクリンク」に入力→共有→発表

★調査のためのインターネット検索 【効果的な情報収集】

・「NHK for School」「各検索エンジン」「動画サイト」など 個人で情報収集をした。

★アプリケーション：「Zoom」

・オンラインにて消防士をオンライン会議上にゲストティーチャーとして招いた。

・学習過程においての質疑応答等、児童が主体的に学ぶことで理解を深めていた。

・より地域の実態にそった内容や最新の情報を得ることで、地域の一員として（自分事として）学習を進めることができた。⇒総合的な学習の時間の学習へ

実践3

○教科名：【全学年】国語・音読

○身に付けたい力：「読み」全般

○効果的な ICT 端末の活用

★マイクロソフト「Teams」の音読機能

・AI 機能による評価（発音・正確な読みの採点機能、ループリック作成）

・自動練習機能によるフィードバック

・家庭学習における音読の見える化、正確

・動画撮影（音声録音）による、自己の「読み」の振り返りが行える。



実践4

○教科名：【全学年】全教科・領域

○身に付けたい力：タブレット端末操作 技能全般

○効果的な ICT 端末の活用

★アプリケーション：「Benesse ミライシード『オクリンク』」

★タイピング検定の実施（年4回）

・正しいフォームを身につけることで、ローマ字を履修しなくともタイピングを行うことができる。

⇒応用例：(1)【全学年】「冬休みの生活表」のタブレット配信

(2)【全学年】「アンケート入力」(Forms や Google フォーム等) 道徳や学活等



成果と課題

*◎成果 ▲課題

◎主張を裏づける根拠が明確になるなど、思考の見える化（可視化）につながった。

◎児童の思考を共有する（教師・友だちが見取る）ことができる。質疑応答等、対話的に理解を深められる。

◎全学年において原則毎日持ち帰り、毎日家庭で活用する環境が整った。

▲タブレット端末を持ち帰るには、児童の負担（重さ等）を強い。

⇒持ち帰るものの精選 ⇒児童や保護者の理解（持ち帰る必要感と必然性）

▲教師の目の届かない場所での利用（家庭等）の場面が増えるため、情報モラル・ICT リテラシーの向上が求められる。⇒年間指導計画に位置付ける

▲タブレットの不調や故障等の対応が教職員の負担増につながる。⇒対応のための研修や情報担当者の確実な引継ぎ、教育委員会担当者との連携、PCトラブルQ&Aの作成で対応